（別紙4）　　平成　25　年度　　評価確定日　平成25年12月17日

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070501392
法人名	株式会社光生ビル
事業所名	グループホーム光生園　　（ユニット名　　）
所在地	北九州市小倉南区葛原高松2-14-12
自己評価作成日	平成25年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7－1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成25年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

この度、園庭に遊歩道を造り戸外での活動が行い易くなり以前にも増して自然や土に触れる機会が持てるようになりました。園の畑で採れた食材で料理を提供したり、園芸療法にむけて準備しており、自然に囲まれた中での豊かな暮らしに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

住宅地の続く坂を登りつめたところに事業所があり、大きな桜の木のあるオーナーの庭園や広い敷地を自由に散策できる。更に今年、敷地内を整地し、利用者の遊歩道と、内に野菜や花畑、そして、車いすの方も土いじりができるように煉瓦で築かれた畑（レイズドベッド）は、このホームならではの楽しみである。職員は、利用者ひとり一人の希望や思いの把握に努め、美味しい食事、そして毎日が職員とともに楽しくその人らしい暮らしが継続できるように努めているアットホームな事業所である。保育園児との交流も利用者の楽しみであり、今後も地域に密着したホームとして期待できるグループホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新規雇用の職員を含め全職員に理念が浸透する様、目に付く所に掲げ、ケアへ反映するよう心がけている	数名の職員の入れ替わりを機に、全職員で理念を見直し、利用者の尊厳を第一に、地域の中でその人らしい生活が維持できるようにとの理念を作成した。誰もが目につきやすいように玄関に掲示され職員間で共有し実践されている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入継続。冬場は坂道の凍結事故防止に酸カリを撒くことを役目とした。近くの保育園と芋掘りを通じて交流が始まった。	地域の方による定期的な紙芝居のボランティア訪問を利用者は楽しみにしている。地域の保育園児達が秋には芋掘りに来たり、園庭へ栗の実りを見に訪ねてくることもある。また、利用者は卒園児達にはプレゼントをしており、親交がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今まで通り認知症についての相談やアドバイスと共に認知症予防にも力を注ぐよう園芸療法の研修、実践をすすめ、地域に発信するよう取り組んでいる。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では当園での取り組みなどの報告になりがちな中、課題に対して素直な意見や助言を頂くことができた。今後も意見交流のできる場となるよう努めたい。	会議には、利用者・家族・地域包括支援センター職員の参加を得て、利用者の日ごろの暮らしぶりや行事の報告等行っているが、家族との意見交換に留まっており、参加者も少人数である。町内会の方等、地域住民の参加までには至っていない。	会議は、町内会の方や地域住民の参加を得て、事業所が地域の一家庭としていかにあるべきかや事業所に対して望みたいこと等を聞く機会となるので、そこでの意見をサービスの向上に活かしていくことを期待したい。
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には手続きや運営に関して相談し、反映しております。地域包括支援センターとは町内会や運営会議に協力いただき連携をとっています。	介護保険制度に関しての疑問点等を役所に出向いて相談したり、市民センターでの秋祭りには出店したりしている。今回、事業所の庭が完成したとき時に行政にも声掛けして、オープニング行事に来てもらう等、協力関係が築かれている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人社員も増え、身体拘束については日々、細かな点から指導している。さらに研修会への参加や報告勉強会を勧め理解を深めている。	市が行う研修やグループホーム協議会主催の研修に参加し、参加できなかった職員には伝達研修を行っている。全ての職員が身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会へは積極的に参加し職員ひとり一人に高い意識を持って職務にあたる様、取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護は現在1名が利用、新人職員にはまず、研修に参加し制度を理解してもらった。研修報告・勉強会を行い他職員にも普通した。	職員は、市が行う研修に参加し、参加できなかった職員には伝達研修を行い理解している。今後は、家族の会開催時に制度についての説明をしたり、ホームの目につく場所にパンフレットを置き、必要時に活用できるよう支援していく考えである。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者家族に十分な時間を取り、説明、変更がある場合など事前に連絡、その都度説明する。相談や疑問には気易く応じられるよう配慮している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事などに参加された際、積極的に話しかけ意見や要望を伺い運営に反映している。運営推進会議議事録、園だよりを公開。	今年度に管理者をはじめ数名の職員が入れ替わったことで、家族にも不安感があるのではないかとの思いから、家族にアンケートに答えてもらったり、家族の訪問時に意見等が気軽に言える雰囲気作りを心掛けている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や勉強会で意見や提案の場を設け、話し合っている。又、気付いた事はその都度言えるように心がけ問いかけている。意見の言い易い雰囲気作りに心がけている。	職員会議では一人ひとりの職員が意見や要望を言いやすい雰囲気があり、提案が反映されている。利用者の誕生日にカラオケの好きな方の希望に添ったり、居酒屋に連れて行ったりしている。また、調理担当者の買い物の手間についての提案があり、利用者の外出支援時に必要な物を購入することになり、これが調理職員への一助となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修参加、資格取得には積極的に支援している。個人の諸問題に配慮した職務分担を行い働きやすい職場環境づくりに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別で差別することなく採用にあたっている。未経験者から経験豊富な職員までがお互い刺激となり職務に活かしている。	採用は、本人の仕事への意欲や適性を重視している。職員の入れ替わりで、新規採用の職員が前向きにお互いを刺激し合って楽しく活き活きと業務に励んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権の尊重については全職員が意識を持つように研修会への参加や勉強会を続けている。意識せずして発せられる。	新しいスタッフ体制になり、これまで以上に「真心からの継続的な介護支援」を常に意識付けし、全職員で共有している。利用者に注意を促す必要時でも、「駄目よ！」と、つい言いそうな時でも「駄目よ」は禁句としており、職員間で注意い合える雰囲気である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的参加し、育成に努めている。修了後は研修発表、勉強会を開催し全職員に広めている。園内での独自の勉強会も2ヶ月に1～2回程度行い、広く認知症予防～認知症の勉強をしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加し交流を持っている。又、他施設へ見学に行ったり職員間の情報交換を行い活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談での違和感や緊張感をできるだけ緩和し、本人の不安や思いが話し易い環境づくりを心掛けている。本人から頂ける沢山の情報を見落とさないように注意している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話に傾聴し、ご家族の本来の不安や心情を理解できるよう話し合いを重ねている。安心して頂けるサービスを提示できるよう取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人を大切にしその方やご家族の望むサービスを調整そいている。訪問マッサージを受ける等、他のサービスも利用している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の手伝いや洗濯物など手伝って頂くことで共同生活者としての関わりを築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会に来やすい雰囲気の中、面会時には情報交換を行い共に本人様を支えている意識をもつ。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親類のみならず、ご近所や友達が自由に面会に来れる環境にしている。散歩やドライブで家の近くを通ったり、行きつけの病院を利用したりと支援している。	利用者の友人の訪問時には、お茶を差し上げたりして歓迎している。また、「昔懐かしい行橋の場所に行きたい」との要望はドライブを兼ねて出かけ楽しんだり、職員での対応が困難な要望には、家族に相談し協力を促す等、関係継続の支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お隣さんとの行き来があったり、家事手伝いなど同じ作業の中でお互い声をかけコミュニケーションが取れるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族からの相談などいつでも応じられるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活やご家族からの情報などからご本人様の意向や思いの把握にと努めている。ご本人様の自分らしい暮らし方を様々な面から考慮しケアプランに反映している。	職員は、日々利用者と接する中で意見や要望を聞き取ったり、思いの把握に努めたりしている。発語のない方には、表情や行動等から希望や思いを把握したり、家族の訪問時に尋ねたり、相談したりして本人の意向や希望の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のアセスメントを用いひとり一人の生活歴やライフスタイル、個性や価値観などを把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック、医療との連携で健康状態を把握している。ひとり一人のできることに目を向け、職員間で情報を共有し支援に活かしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。毎日のケアプランのチェックやモニタリングを行い職員や家族と話し合いを行っている。	利用開始時に本人、家族から要望等を聞きとっている。また、かかりつけ医にも受診時に意見を聞き、介護計画書に反映させている。職員会議では、一人ひとりの利用者について全職員でモニタリングを行い、計画作成担当者が現状に即した介護計画書を作成している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にカルテを作り、バイタルサインや食事、排泄、生活状態など毎日記録し、職員間で情報を共有している。実践状況から介護計画の評価、見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全員が同じではなく、個別をふまえた支援を取り入れる為の検討をしている。子供さんの面会、外出、買い物、個別リハビリなど本人や家族の状況に沿った支援に心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に参加していることで、自治会との関係が保てている。校区の行事に出店、参加することで新たな情報交換や協力が得られた。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院から月に2回訪問診療あるが、ご本人や家族の希望する医療機関があれば受診できるよう支援している。受診に際し職員が同行し必要な情報を伝達している。	本人及び家族の希望を大切にしているが、殆どの利用者が協力医を主治医としており、1名の利用者が以前からのかかりつけ医へ受診している。週2回医院からの訪問看護と月2回の協力医、月1回の歯科医の訪問診療がある。他科受診時は職員対応で受診し、家族へ受診結果を伝えており、適切な医療が受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H25.7.1～T病院より看護師を派遣契約。2回／W訪問とし適切な受診、看護を受けられるようにしている。介護職は日常の		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際して細かな情報交換を行い心身のダメージを最小限にしている。職員の面会も出来るだけ時間を取り行い、不安なく治療にあたって頂いた。早期の退院に協力し認知症の進行予防、廃用予防に努めるようにした。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向調査をし、重度化した場合、本人や家族に園で出来ること、できないことを話し、意志確認書を作成、医師・看護師の連携・協力のもと、本人や家族が納得した最期を迎えられるよう努力している。	ターミナルケアは可能であるが、現在該当者はいない。要介護度5で状態が不安定な利用者がおられたが、全職員で情報を共有しながら医療との連携等で、今では元気を取り戻している。家族が宿泊できる和室があり、食事の提供も可能である。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員には早急に研修に参加してもらい、又、研修発表を行うなど現場職員の勉強会にも繋がった。急変時の対応や連絡方法についてマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上防災学習会や防災訓練の実施を行っている。地域の協力体制について、自治会でお願いしている。設備点検は関係会社の指導のもと行っている。	春と秋に昼間と夜間を想定した避難誘導訓練を行っている。近隣の方も高齢者が多く、協力は難しいが、元ホームに勤務していた看護師の協力がある。飲料水等の備蓄品も準備されている。地震、水害についてのマニュアルを現在検討しているところである。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの保護に対し十分気をつけている。利用者様を敬い、ケアが慣れ合いにならない様に気を付け、職員間でも注意しあうようにしている。	大きすぎる声掛けをしないことや、ドアをすぐに閉めない等、利用者を尊重した接し方について職員間で注意し合っている。家族から衣服を汚すからとエプロン使用の要望があったが、ひどく汚すこともないので、利用者の誇りを損ねないためにも家族と話し合い使用しないことを納得してもらっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとつの行動に対して返事を頂けるよう声かけしている。レクの中にバイキングや買い物など利用者様が選んだり決定する場面を設定してみた。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく個人を尊重し、思いに添う様努力している。日々の生活ではその方の得意とするものや体調を考え皆さん一緒ではなく個別化を図っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意向で決めているが、季節に合わない物などは本人様を傷つけない様声掛けしている。自己決定のできない方にはその方らしさを考えながら職員が支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中で好みや旬の食材などを話し、メニューに取り入れている。料理の下ごしらえから食器洗いなどを手伝って頂くようにしている。職員と利用者様が同じテーブルにつくことで会話が広がり、食事をより楽しいものとしている。	心地よい音楽が流れる中、利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を楽しく会話しながら摂食している。庭園で利用者と一緒に育てた野菜を楽しんでいただいている。利用者の能力に応じて、ねぎを切る、お茶を入れる、コップを洗う、配膳をする等、その人にあった手伝いをして個人の力を発揮している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えひと月ごとの献立を立てている。食の重要性を知り、個人様にあった形態で食事を提供している。毎食の食事量チェック、水分摂取をチェックしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるところはご本人で口腔内をきれいにして頂くが、無理なところは必ず職員が介助し清潔を保っている。歯科の訪問診療では医師のアドバイスのもと口腔機能が低下しないよう努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のオムツの使用者はなく、必ずトイレで排泄できる状況を作っている。排泄パターンをつかみ、トイレで排泄することで失禁の不快感を軽減している。夜間もトイレ誘導を行うことで自立にむけ支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、日中は全員トイレへ誘導し、排泄の自立支援をしている。夜は2名の方のみがおむつを使用している。紙パンツ、布パンツにパット利用等、個々の状態に合わせて自立への支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便に向け食事や水分補給などに配慮している。又、看護と連携し服薬による排便コントロールを行うことで便秘を予防している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	皆さん入浴を好まれており、ゆっくりと時間をかけ楽しんで頂くようにしている。重度の方に関しては二人介助を行うことで浴槽につかって頂き身体を温めている。	日曜日を除き、毎日入浴できる状態で、週3回の入浴としている。しょうぶ湯、ゆず湯等、季節のものを取り入れて入浴を楽しんでもらっている。利用者の全員が入浴好きであり、楽しんでいる。着替え等の入浴の準備は、前日に可能な方は自分で行ってもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はその方の希望に合わせるようにしている。日中活動することで、皆さん夜は良眠されている。その日の体調に合わせ休息を促している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の情報をカルテに保管し、すぐ確認できるようにしている。変更がある場合は看護連絡に記載、必ず確認するよう徹底している。服薬介助時は声に出しその場で再確認。ダブルチェックでミスを防いでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのできること、得意なことを活かし家事手伝いや花を飾ったり、散歩などで気分転換を図っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせドライブに行く場所を決め出かけている。外食会では大好きな刺身が美味しい場所まで足を伸ばしている。	季節の花を見に行ったり、若松、椎田等遠方にも全員で出かけている。また隣接するオーナー宅の庭に弁当やおやつを持って行って食べることもあり、外出の機会となっている。カラオケの好きな方の誕生日に、お店に頼み、昼間に開けてもらいカラオケと料理を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物をレクとして取り入れ、少人数でご自分で品物を選び支払うことをした。ご自分で財布を持たれている方もいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された場合は電話をし、家族とお話しができるように支援している。家族から定期的に電話のある方もあり、話がしやすいよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓から桜や梅の木を見ることができ、季節の移り変わりを目で見て感じとることができる。自然に囲まれた静かな環境の中で台所の音や匂い、人の声と生活感を感じ過ごせている。	リビングにはソファをL字型に配置してあり、利用者全員が座ってもお互いの顔を見渡すことができるほどゆったりとしている。すぐ傍では調理する音やにおい等、五感で感じることのできるダイニングキッチンがあり、リビング共々、居心地の良い共有空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、玄関ホール、食堂など思い思いの場所で座ってくつろげる様にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使い慣れた家具や思い出の品物などに囲まれ、落ち着いて生活できるようにしている。ご家族にもご協力いただき衣替えを手伝っていただいたり、居室を広く居心地よく使っていただけるようにしている。	テレビや使い慣れた家具、お位牌等を持ち込み、ベッドも統一のものではなく、それぞれが好みの物を使用している。居室内は、写真や卒業証書等を飾る等、利用者の好みを反映してあり、居心地良く過ごすことができる工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下など余計な物を置かず、手摺りをつけるなどし安全な環境作りに心がけている。居室、トイレなどは貼り紙をし視覚に訴えることで混乱のないよう工夫している。		